

# 和束の暮らしを支え、活力を育む " まちの広縁 "

京都の文化を支えながら、美しい風景や茶業に関わる独特の文化を育んできた和束町。

この計画においては、新しい拠点をすべての町民が安心して暮らせる基盤を構築するとともに、次世代を担う子どもが学び、高齢者が生きがいを持ち、町外の人が茶業や暮らを体験する場として捉えます。

また、これら人々の交流を創出し、活力を育む拠点として、" まちの広縁 " を中心に計画をおこないます。



## 6つの方針

### A：和束町の美しい風景に学ぶ建築



山並みと田畑

茶畑

瓦屋根の重なり

石積み擁壁の水平線

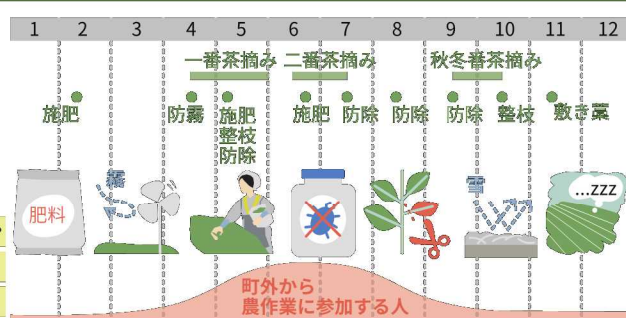
和束町には茶畑の反復する山並みや田畑の広がる美しいランドスケープがあります。さらに、それらを背景として瓦屋根・水平に連なる窓・石積みの擁壁といった要素が一体の風景を構築しています。私たちはこれらの魅力ある要素を再構成し、和束の風景を象徴する建築を計画します。



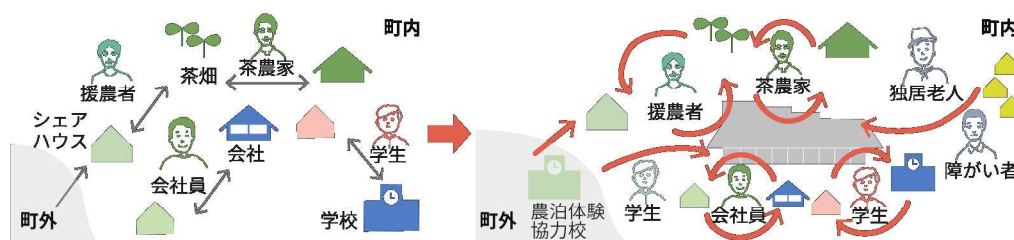
和束町の風景に学んだ建築の提案

### B：多世代や町内外の人が集い交流を生む「まち（町・待ち）の広縁」

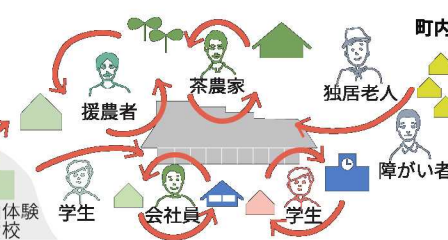
茶業の農繁期には町外の援農者が流入するものの現在の関わりは希薄であり、日常的にも世代を越えて町民が交流できる空間が不足しています。こうした資源が循環するように、建物の南側全体に多世代・町内外の人が集まって活動し、待合いとする「まちの広縁」を計画します。



お茶栽培の年間作業と参加する人の増減



自宅と目的地以外の居場所がない現状



人々が集まる居場所としての施設の提案

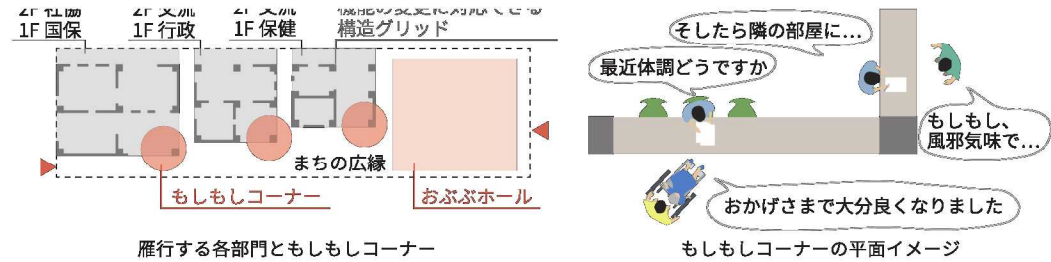
### C：多彩な人の活動を受け止めるシンボル「おぶぶホール」

茶文化を発信するシンボル拠点として、茶畑の風景を背景にする「おぶぶホール」を計画し、茶業体験の開村式や、茶婚式、軽スポーツから多様な市民活動まで、内容に応じて伸縮可能な空間とします。



### D：保健・医療・福祉を明快にする雁行配置と「もしもしコーナー」

制度の分節が多く、複雑に感じられる保健・医療・福祉の機能に対し、各部門を視認性の高い雁行配置とし、角地に何でも尋ねられる「もしもしコーナー」を設置することで、町民の健康を総合的に支えます。

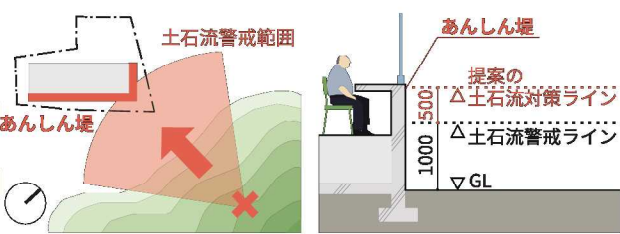


雁行する各部門ともしもしコーナー

もしもしコーナーの平面イメージ

### E：災害時の安心安全と日常の居場所を兼ねる「あんしん堤」

敷地は暮らしの交流エリアにありながら浸水や土砂災害といった自然災害リスクを抱えています。これに対し提案では、建物の床レベルをかさ上げして災害に備えながら、日常的な居場所となる「あんしん堤」を計画します。

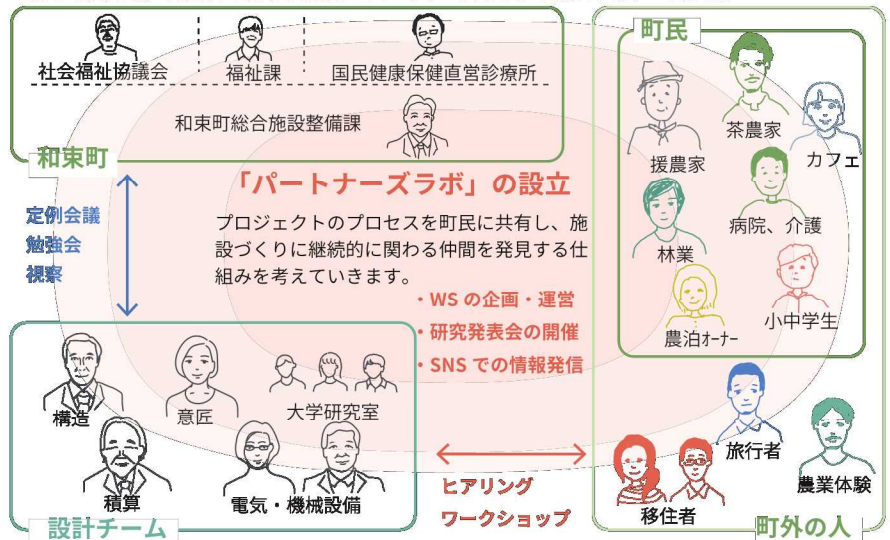


あんしん堤の配置

あんしん堤の断面スケッチ

### F：町民と協働しながら着実に進めるプロセスデザイン

福祉施設の設計経験が豊富な意匠設計を中心に、公共施設の実績豊富な技術者でチームを構成し、スケジュールやコストを管理します。大学研究室の協働等町民の活動や創造力を引出し、開館後の施設運営に繋がるパートナーズラボの設立を含め、継続的な取り組みを行います。＜まちの人々の声を受け止め共に考える「パートナーズラボ」を核とするチーム体制＞



＜プロセスを共有し町民が継続的に関わることができるスケジュール＞



パートナーズラボ設立も踏まえた継続的な町民との対話





## 01: 新たなシンボル 重なり瓦屋根

### ・山と町の双方に応える瓦屋根

「南側の山」と「北側のまち」という双方の風景に対し、この提案では、**瓦屋根の重なりを設けることで調和を図ります**。南に伸びる屋根は、茶畑が連続するなる山々に応えるように一枚の大屋根を掛け、北側には住宅の街並みに応えるように高さや勾配の異なる屋根が連なります。

## 02: 歩車分離し南北を生かす動線計画

### ・北の車両ゾーン：

#### 福祉と医療の運営を支える底空間：

この施設は、福祉や医療を支える町の中心施設であり、検診車や救急車といった大型車両の出入りが頻繁に起こります。これらの**車両動線を敷地北側に固めてゾーニングし、検診や大物搬入にも効率の良い車両動線を計画します**。北側に複数設けられた出入口は搬入動線にもなり、庁舎への往来も容易にします。

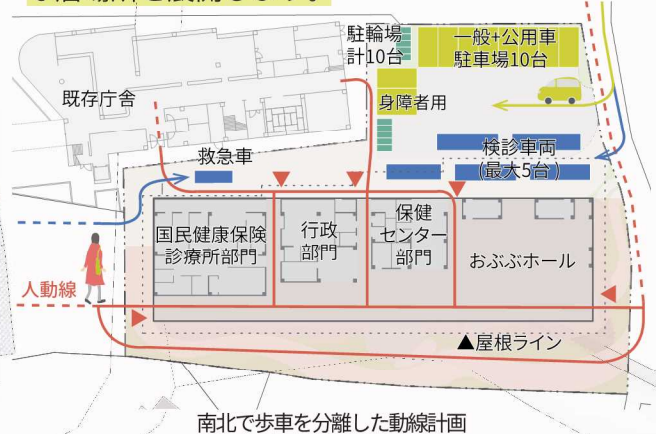
また、検診車のスペースは底を設け、検診時にも利用者が雨に濡れずに一連の検診を受けられる動線を構築します。

### ・南の歩行者ゾーン：

#### 安心の歩行者動線と多様な底空間

敷地の南側は、内外が連続しながら歩行者の動線が展開し、安心して敷地の東西を通り抜けられる構成とします。

南側は建物から底が伸び、内外が連続するデッキスペースや樹木で日差しが遮られ比較的静かなテラス空間、建物基礎が遊具のように現れる公園のような空間、茶畑に向かいだんだんと低くなる大きなベンチ空間など、**周辺の環境を生かした多様な居場所を展開します**。



### 災害時の連携

社会福祉協議会・ボランティア室・調理室・和室・浴室は災害時でも連携できるよう2階に配置します。

### 区画可能なまちあい空間

国民健康保険診療所の待合スペースは可動開き戸で区画でき、プライベートに配慮した計画とします。

ロッカー・看護師休憩室

委託医控室

所長室

薬品庫

カルテ庫

事務室・受付

心電図室

内視鏡検査室

消毒室・滅菌室

X線室・操作室

診察室

安静室

まちあいコミニ

ニッチベンチ

外部階段

授乳室

PS EV

受付

活動室①

活動室②

活動室③

活動室④

和室

ボランディア室

調理室

脱衣室

浴室

洗濯室

休憩室・給湯室

社会福祉協議会事務室

受付

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

### どこからも見える もしもしコーナー

視認性の高い窓口の受付カウンターは車イス利用者にも優しいユニバーサル家具とします。

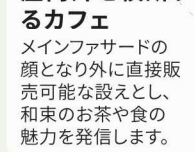


### 風景を写す連そう窓

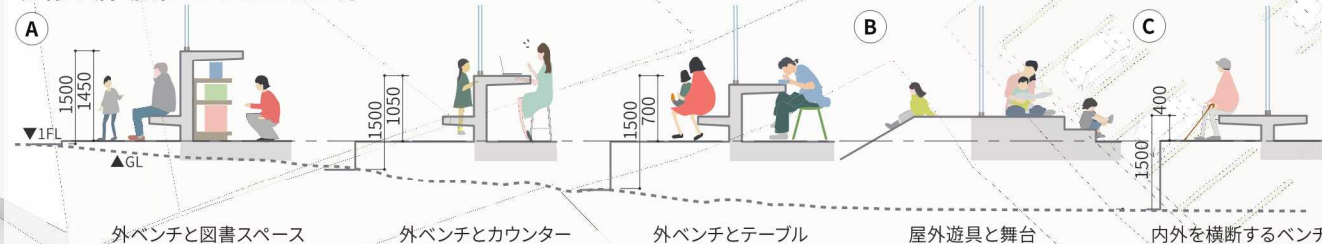
敷地南側の茶畑や山並みを一望できる開口部です。

### 屋内外を横断するカフェ

メインファサードの顔となり外に直接販売可能な設えとし、和東のお茶や食の魅力を発信します。



### 多様な居場所となるあんしん堤



### 風景を眺める 飲食カウンター

調理室の前に風景を眺める飲食カウンターを提案します。



### フレキシブルな 検診室

検診車停車スペースに近く、検診者用トイレを併設しているので独立して検診をおこなうことができます。可動間仕切りを開けるとホールと同時利用も可能です。

### 北の屋外広場

検診時以外は移動販売車やバスの停車が可能で、災害時には炊き出しの場やマンホールトイレなど設置が可能な計画です。

## 03: 「まちの広縁」が繋ぐ町民活動と各部門

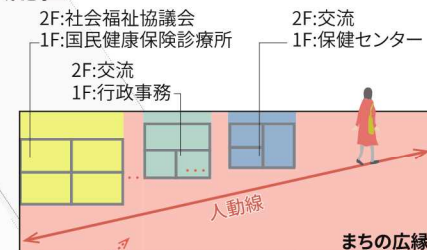
### ・まちの広縁：南に開き、まちのリズムを受け止める

南面して明るく見通しの良い「まちの広縁」は、東西方向の主動線であり、空間の大きさや設えによって様々な居場所をつくります。季節で変動する活動に対応し、**町内外の人々が交流する空間**となります。

### ・各部門運営の可変性に対応する島状配置

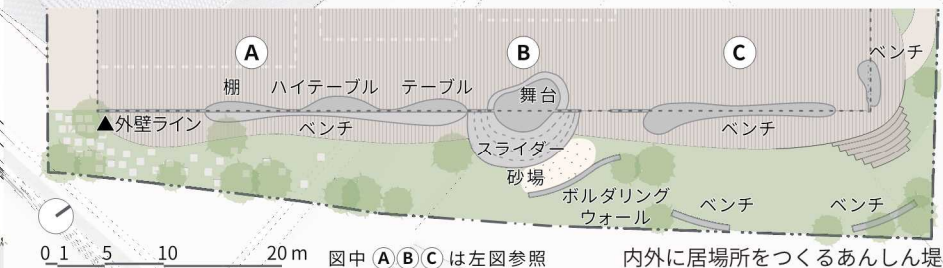
「国民健康保険診療所」、「行政」、「保健センター」、「社会福祉協議会」の各部門は田の字プランの島状ボリュウムとして配置し各部門の独立性を高めながら、まちの広縁によって繋がります。

各部門間は幅の広い通り抜け空間の建具の開閉により多様な運営方法に対応できる計画とします。



### ・65m メートルの居場所をつらねる「あんしん堤」

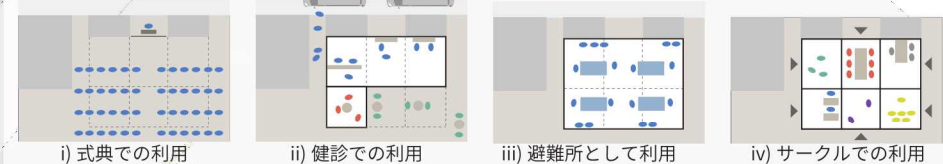
65メートルつづくまちの広縁の内外境界上には、災害対策の役割を果たす堰堤「あんしん堤」（提案 06 参照）が多様な居場所をつくります。比較的静かな西側のハイカウンターから、テーブル、遊び場、ベンチまでを連れ、子供からお年寄りまでが各々時間を過ごす空間となります。



## 04: 茶畑を背景とする自慢の「おぶぶホール」

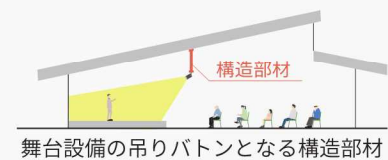
### ・フレキシブルに活動を支える「おぶぶホール」

まちの広縁の東側端部にあって、南の茶畑に向かって最も開ける位置に、平土間のホール「おぶぶホール」を計画します。可動間仕切りを設置することによって、多様な活動に伸縮して対応できる設えとします。



### ・舞台設備にも対応可能な計画

ホールの大空間を支える構造部材は、照明や音響といった設備の吊りバトンを兼ね、**舞台設備にも対応可能**です。





## 05: ワンストップステーションとして連携する機能ボリュームと「もしもしコーナー」

### ・部門間の連携を想定した平面計画

医療、福祉、子育て、災害時、事務といった視点から、各部門の連携の強さ、地面レベルへの接地の必要性、役場との関連性などを整理し、隣接関係をまとめました。

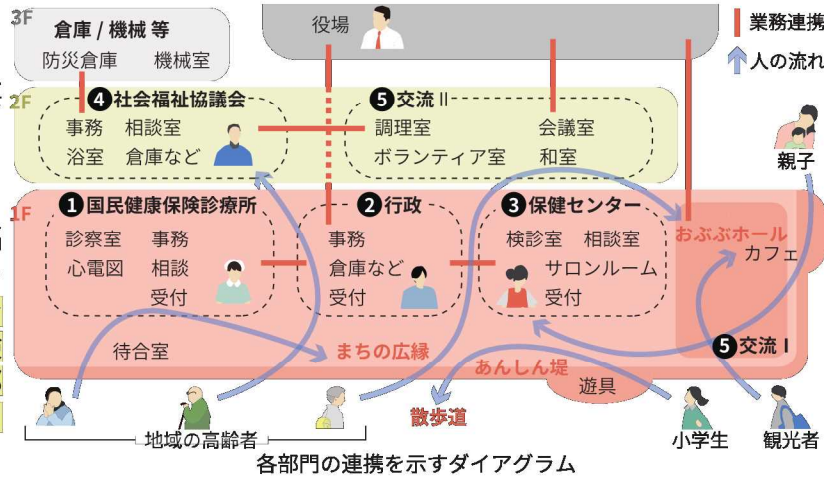
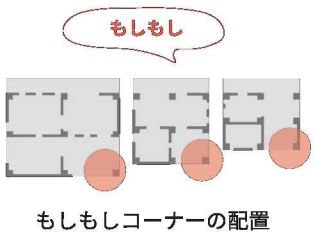
1 階の西から東に向かって①国民健康保険診療所、②行政、③保健センター、2 階も西から④社会福祉協議会、⑤交流の各部門を並べます。おぶぶホールから離れた国民健康保健診療所はセキュリティが高くなっており、東側の保健センターは検診車との連携が容易な配置です。行政部門は両部門の間で連携を促進します。また北側に入出口を複数設置し、庁舎との連携を図ります。

### ・すべてがまちの広縁に顔をだす雁行平面

複雑化しやすい保健・医療・福祉・行政のサービスをそれぞれ独立した島状の機能ボリュームとして配置し、まちの広縁に対して雁行させることで、視認性が高く、わかりやすい計画とします。

### ・雁行の角で尋ねられる「もしもしコーナー」

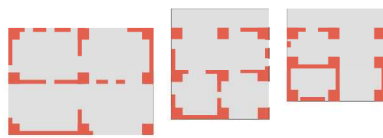
各部門の窓口が明確となるよう、雁行した機能ボリュームの角部分に尋ねられる設え「もしもしコーナー」を設けます。それらが東西どちらの入り口からもよくみえる安心できる施設とします。



各部門の連携を示すダイアグラム

### ・将来を見据えたフレキシブルなグリッド計画

機能ボリュームはシンプルな RC ラーメンの田の字プランで構成します。今後の人口減少にともない各部門の規模や役割が変化した時にも、空間の使い方をフレキシブルに変更できる提案とします。

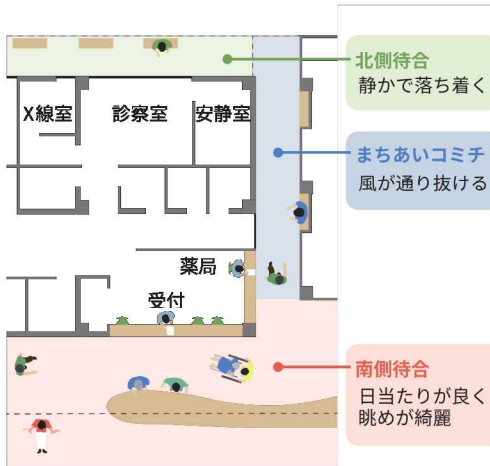


機能ボリュームの構造体

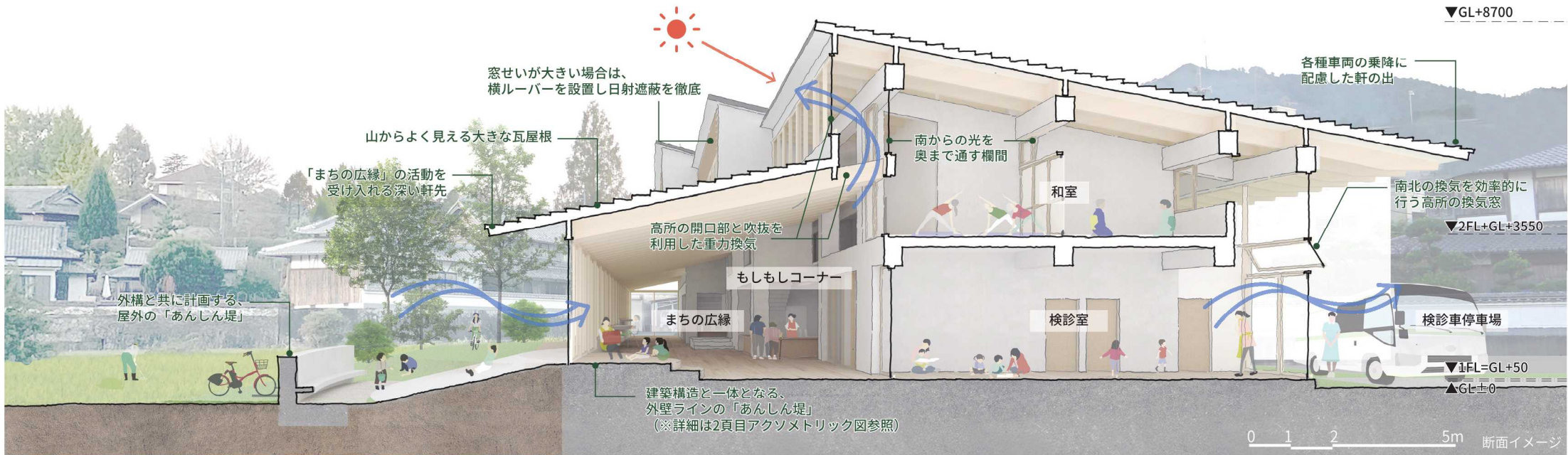
将来的な変化に対応できるグリッド配置

### ・様々な待合い空間が選べる平面計画

各部門において、必ず生じる「待合いの時間」をどのように過ごすか、利用者が選択できる施設を目指しています。もっともオープンで賑やかな南側の待合はもちろんのこと、風の抜けるまちあいコミチや、北側の静かな待合いなど、運用次第で多様な待合いを創出することが可能な平面計画となっています。



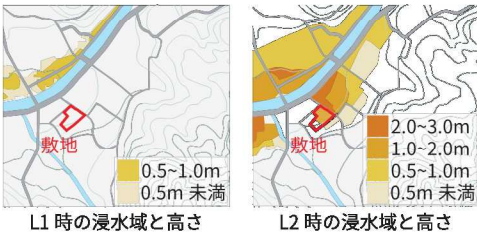
選択肢のある多様な待合空間



## 06: 日常的に災害を学び、防災への意識を高める設え「あんしん堤」

### ・浸水警戒地域としての考え方

今回の敷地は、暮らしの交流エリアにありながら、浸水のリスクを抱える場所です。この課題に対して、私たちは建物の床レベルをかさ上げることで洪水に備えます。



L1: おおよそ百数十年に一回程度の大雨

L2: およそ 1000 年に 1 回程度の大雨

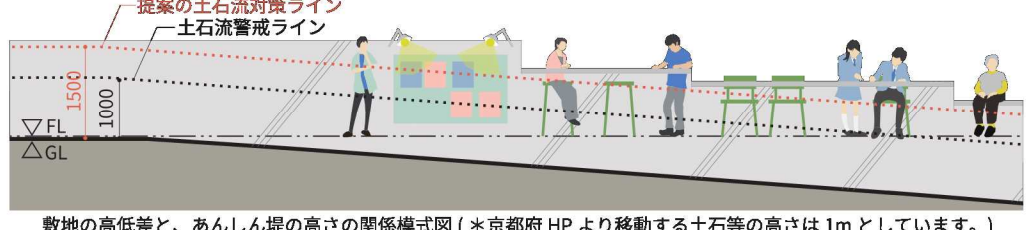
### ・土砂災害区域としての考え方

山からの土石流に対して、あんしん堤が建物の南東方向を囲い堰堤として機能します。



### ・堰堤としてのあんしん堤

敷地の高低差をなぞるように RC 造の堰堤「あんしん堤」を計画します。あんしん堤の高さは想定される土石流境界ライン\*より、さらに高い位置 (提案の土石流対策ライン) に設定します。平常時は施設内外に居場所をつくり、その経験が町民の防災意識を育む仕掛けとなります。



敷地の高低差と、あんしん堤の高さの関係模式図 (\*京都府 HP より移動する土石等の高さは 1m としています。)

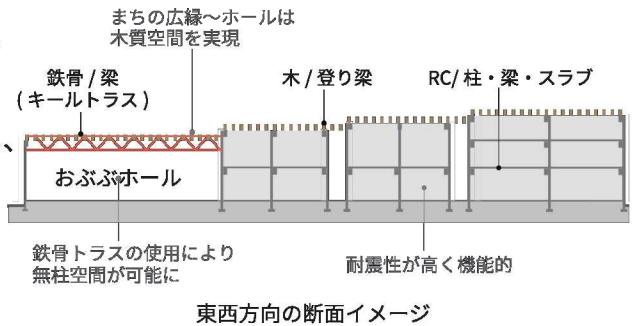
## 07: 将来の変化を見据えた、日常を支える構造計画

### RC 造と木造の混構造

- ・耐震性の高い R C 造と環境に配慮した木造を組み合わせた構造とします。
- ・屋根は木造梁で構成し、まちの広縁を木造の登り梁で計画します。まちの広縁の南側外周柱も木造柱として連続した木質空間を実現します。
- ・おぶぶホールは東西方向にキールトラスを配することで、無柱空間とし、ホールの屋根を構成する部材サイズを他の部分と統一します。
- ・木材は京都府産の集成材と製材を用い、地域林業活性化に貢献します。
- ・RC 部は構造体をグリッド状に配置し将来の変化に対応可能にします。

### 浸水に備えた床レベル

- ・浸水に備えて床の高さをかさあげし、同時に湿気対策も図ります。

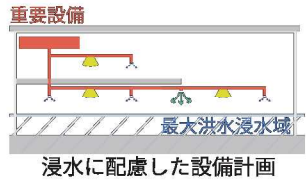


東西方向の断面イメージ

## 08 災害に備え、自然通風・採光を生かした効率的な設備計画

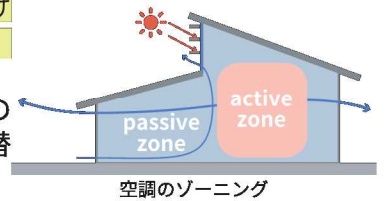
### 浸水対策

- ・重要設備 (受変電設備や非常発電機) は 2 階以上に設置し、浸水から守る BCP 計画とします。
- ・高置水槽を設置し浸水被害時や断水時に一定の給水を確保し、建物の継続利用を可能とします。
- ・BCP 対策は最低 7 2 時間とし、ボランティア拠点となることも考慮し、可能な限り備蓄量を増やし + 4 8 時間程度の BCP 確保を目指します。



### 省エネ対策

- ・断熱を十分に施し、かつ開口部の断熱性能向上とともにルーバー設置などにより日射遮蔽を徹底することで、建物負荷を軽減します。
- ・夏は執務エリアを閉じ、共用部は通風を確保した非空調ゾーンとし、コア部 (active zone) とまちの広縁 (passive zone) の入れ子構造を活かし、ランニングコストの低減を図ります。
- ・日中の卓越風が強い地域のため、効率的に自然換気が出る様に、南側の高窓や吹抜けを利用し重力換気を促します。



### 既存の水路について

- ・敷地内にある既存水路は敷地の造成と合わせて撤去後、切り替えて暗渠化を不要にします。

## 09: 定期的な確認によるコスト計画

### コスト計画

社会情勢の変化などに柔軟に対応できるよう、基本設計、実施設計のいずれも期間中に定期的な計画条件の確認を行い、随時コストコントロールしていきます。

※見積は現時点での規定で算出しています。計画内容の進捗により変更となる場合があります。

| 工事項目     |    |    |            | 備考     |
|----------|----|----|------------|--------|
| 工事区分     | 数量 | 単位 | 金額(千円)     | 備考     |
| 建築工事     | 1  | 式  | ¥570,000   |        |
| 空調換気設備工事 | 1  | 式  | ¥60,000    |        |
| 衛星設備工事   | 1  | 式  | ¥45,000    |        |
| 電気設備工事   | 1  | 式  | ¥120,000   |        |
| 外構工事     | 1  | 式  | ¥40,000    |        |
| 計        |    |    | ¥835,000   |        |
| 共通仮設費    | 1  | 式  | ¥31,563    | 3.78%  |
| 現場管理費    | 1  | 式  | ¥92,722    | 10.70% |
| 一般管理費    | 1  | 式  | ¥80,715    | 9.25%  |
| 計        |    |    | ¥205,000   |        |
| 総工費(税抜)  |    |    | ¥1,040,000 |        |
| 総工費(税込)  |    |    | ¥1,144,000 |        |